

## 令和7年司法試験の結果について

九州大学法科大学院長 大脇 成昭

令和7年11月12日、令和7年司法試験の結果が発表されました。

本学の修了生26名が合格いたしました。詳細は以下の通りです(括弧内の数字は全国の順位です)。

項目	全国	本学
○受験者数	3365名	84名
そのうちの既修者の数	2314名	51名
そのうちの未修者の数	1051名	33名
○最終合格者数	1153名	26名(12位)
そのうちの既修者の数	966名	21名(12位)
そのうちの未修者の数	187名	5名(13位)
○最終合格率(最終合格者数/受験者数)	34.26%	30.95%(13位)
既修者	41.75%	41.18%(13位)
未修者	17.79%	15.15%(20位)
○法科大学院修了直後の者の最終合格率	34.18%	29.17%(19位)
既修者	41.08%	50.00%(11位)
未修者	21.72%	8.33%(24位)
○法科大学院課程修了資格の最終合格率	21.91%	22.03%(14位)
既修者	26.83%	31.03%(16位)
未修者	14.18%	13.33%(19位)
○在学中受験資格者の最終合格率	52.66%	52.00%(14位)
既修者	58.67%	54.55%(14位)
未修者	28.36%	33.33%(10位)

令和7年司法試験における本法科大学院の最終合格者数は26名、最終合格率は30.95%でした。昨年と比べて全国の合格率がほぼ変わらない中で(34.84%→34.26%)、合格者数が減少し、合格率も少し低下しました(昨年は37名、34.58%)。過去5年の本法科大学院の最終合格率の順位は、令和2年9位(46.67%)、令和3年21位(29.31%)、令和4年12位(33.33%)、令和5年21位(23.40%)、令和6年11位(34.58%)となっており、隔年で合格率が上昇または下降する傾向があります。本年は下降する傾向が見られる年に当たりましたが、昨年と比べて、大きくは低下しませんでした。

本年の特徴として、課題であった在学中受験の合格率が大きく上昇したことがあります(36.84%→52.00%)。このうち既修者の合格率は54.55%(14位)となり、全国平均の58.67%に相当程度近づくことができました。これは法曹コースとの連携や論述能力を強化するための取組などにより、早期に合格を目指す体制が整ってきたことの現れと考えています。

他方で、これまで堅調に推移してきた修了直後の合格率は、既修者(50.00%、11位)、未修者(8.33%、24位)ともに、低下する結果となりました。在学中受験で合格できなかった場合でも、修了後に確実に合格することができるよう、基礎力の定着と論述能力の涵養のための取組を引き続き強化してゆきたいと思います。

今後は継続的に成績を向上させてゆくために、さまざまな方法で常に現状を分析して、問題を発見し、改善に繋げてゆく所存です。